

「変わりゆく時代の変わらぬ笑顔を守るために」

宮城県仙台二華中学校 2年

渡邊 羽音さん

それは突然我が家に起こった小さな事件。オレオレ詐欺はニュースのなかの出来事だと思っていたが、まさか身近に起きるなんて。被害にあった人はみんなそう思うのかもしれない。その油断が全国のお年寄りを悲しみと絶望へ導いているのだろう。

ある日、家に帰るといつもと違う異様な空気を感じた。父と母が静かに話していた。父方の祖父がオレオレ詐欺にあったのだと言う。その手口は見事だった。彼らは「仮想通貨で失敗したから助けてほしい。」という口実でお金を祖父からだまし取ろうとしたらしい。祖父は迷わず息子のため、孫のため、と近くにはない銀行を飛び回り、総額 400 万円を用意した。詐欺ではないかと怪しむ祖母が家にいたが、「息子に違いない。助けなくては。」と耳を貸さなかったそうだ。そしてまさに振り込むというとき父に「直接福島の実家まで取りにこれないのか。」と、確認の電話をかけたことで、危機一髪。お互い話がかみあわず詐欺だと気づいたのだ。電話一本。この一本がなかったら被害にあっていた。

今回はお年寄りに馴染みのない仮想通貨を理由にすることで騙しやすくしているのだ。詐欺も時代に対応して進化していることに驚いた。

これらの詐欺に引かかる原因として私は連絡手段が発達したゆえの私達の意識の甘さが関係していると思う。お年寄りをねらった詐欺が止まらないのは核家族化のせいだという意見も聞く。しかし、携帯電話や電子メールなど遠くの人と連絡する手段が増え便利になった今、家族間のコミュニケーションの機会そのものが不足しているとは考えにくい。実際我が家でも三世帯のグループラインを作っていつでも連絡できるようにしている。原因はコミュニケーションの量ではなく、質にあるのではないか。電話やメールで相手と容易にコンタクトがとれることで、実際に会うことの大切さが見失われ、目と目を合わせて会話することはかえって減ってしまったのかもしれない。「いつでも声が聞こえるから大丈夫。」そのわずかな隙間に詐欺犯罪はつけこんでくるのだ。いくつになっても子供を愛する親の気持ちは変わらない。その心を逆手にとって踏みこむ犯罪を野放しにしてはならない。

今の私達に出来ることは、出来るだけ会うこと。祖父母の家が遠く、行くのが難しい場合は発達した通信手段、最近ではラインのビデオ通話やフェイスタイム、スカイプなどの便利なアプリを活用し、顔を見て、目と目を合わせて話すことが必要である。文字や声だけでは伝わらないことがあるからだ。

携帯電話の進歩と並走して生まれて来た私達の世代こそがお年寄りが安心して電話に出られる社会を作っていかなければならない。子供からの電話に応えるその笑顔は私達の守らなくてはならない大切な宝物である。